

Yonago East Weekly



【 平和という未来に希望を持ち、ロータリーの出会いを楽しみましょう 】

- 創 立 / 1968年4月24日 ● 事務所 / 米子市西福原1-1-55 スマイルホテル米子 Tel.(0859)32-5531
- 例会日 / 水曜日12:30~13:30 ● 例会場 / A N A クラウンプラザホテル米子
米子市久米町53-2 Tel.(0859)36-1111
- 会 長 / 佐田山有史 ● 幹 事 / 船田正一 ● 会 報 / 松浪昭二

出席報告

会員数 108名
 出席数 75名 欠席数 27名
 出席免除会員 6名
 荒川(雄)君 杉原(弘)君 新納君
 宮本(守)君 高橋君 小谷君
 出席率 73.8 %

ビジター

メイクアップ

会員 4名 (3/25 米子南RC 例会訪問)
 会員 3名 (3/26 ソウル芸場RC)
 会員 2名 (3/28 米子中央RC)
 会員 29名 (3/28 新会員歓迎会)
 会員 1名 (4/1 米子南RC例会)

今週のお祝 (結婚記念日)

7日 杉本君 7日 宮本寛雄君 10日 山根樹来君
 12日 木美君 15日 谷野君 15日 松田君
 21日 長棟君 25日 宇田川君 29日 高田君



【 会 長 挨拶 】

皆さんこんにちは
 3月25日、米子南ロータリークラブ
 に、今年度の新会員を誘って5人で
 メイクアップに行っていました。

大歓迎を受けて、会長挨拶をせよ、ということで他所のクラブに行って他所のクラブの会長が挨拶するというのは、前代未聞ではないかなと思いますけれども、我がクラブのことを紹介させていただきました。今日は孫子の兵法のことで、皆様にお話をさせて頂きます。孫子の兵法は戦略、戦術、長としてのものの考え方を示唆しており、現在にも活用されております。

「彼を知り、己を知れば百戦殆うからず。彼を知らずして己を知れば、一勝一負す。彼を知らず己を知らざれば戦う毎に必ず殆うし」。

という言葉がございます。相手敵軍あるいは市場社会の実情や実態を知って自分の状況や実態を知っていれば、

スマイルBOX 21,000 円 (896,000 円)

創立記念日祝 : 中田君
 本人誕生祝 : 中田君
 主・夫人誕生祝 : 井上 (雄) 君
 結婚記念日祝 : 木美君 宮本 (寛) 君 高田君
 中田君 山根 (樹) 君
 ❖先月の合度例会後、タクシーがなかなか来ず困っていらっしゃいましたら佐田山会長が淀江まで車で送っていただきました。
 本当に有難うございました。吉岡君

《 幹 事 報 告 》

- (1) 米山功労者表彰 第5回マルチプル伊藤慎哉君
- (2) 3/6週報差し替えのお詫び
- (3) ポリオプラスソサエティ登録のお願い
- (4) 4月第3例会100%出席のお願い

百回戦っても危険に陥ることはない。相手の実情を把握せずに自分の実情だけで知っているのであれば勝ったり負けたりする。相手のことも知らず、自分のことも知らないようでは戦うたびに危険に陥る、ということでございます。司馬遼太郎の「人間というもの」という本の中に、兵法の真髄は常に優位へ優位へと取っていくところにある。言い換えれば、恐怖の量を敵よりもより少ない位置へと持っていくところにあると言えるであろう。名将とは人一倍臆病でなければならぬ。臆病こそ敵を知る知恵の源泉というべきもので、相手の量と質、主将の性格、心理、などについて執拗に収集する。そして、自分の側の利点と欠点を考えておくのである、というふうに書かれておりました。以上です。本日もありがとうございました。



世界に希望を生み出そう
 CREATE HOPE in the WORLD

<本日のプログラム>



株式会社リージョンデザイン・ホールディングス 代表取締役 藤山 勝巳 氏

『2040年、山陰を持続可能な日本有数の豊かな地域へ
～人生100年時代のまちづくりを通して～』

2040年、山陰を持続可能な日本有数の豊かな地域へ
～人生100年時代のまちづくりを通して～

山陰の有望性について

境港市人口の推移

	1980年		2040年
人口	37,278人		27,976人
高齢者 (65～)	4,063人	10.90%	10,127人 37.40%
労働生産人口 (15～64歳)	24,373人	65.38%	13,762人 50.80%
労働生産人口 (15～64歳)			13,762人
65～69歳			2,229人
70～74歳			1,812人
合計			17,803人 63.64%
85～89歳	154人		1,343人
90～	45人		1,532人
合計	199人		2,875人 10.27%

3. 人生100年時代の変化、新しい習慣とは

・・・人の生活はどのように変わるのか

「どこに住むか」

安全な家・・・転倒リスク、温度管理、災害・防犯
人がいる環境・・・サポート、気づいてくれる、共感してくれる

「どうやって暮らすか」

運動、食事、交流、趣味、体調管理、生活リズム

我々の「新・高齢者住宅」に集まって住むという暮らし方

4. 2040年の新しいまちづくり、新しい社会とは？

「人生100年時代の新・高齢者住宅を中心としたまちづくり、すなわちコンパクトシティの中心部で超高齢者が集住するというパラダイムシフト、高齢者が70歳、75歳まで働き、80歳を過ぎても社会生活を維持し消費者層となるというパラダイムシフト、さらにエッセンシャルワーカー（医療介護職）が中産階級となり地域経済を牽引するというパラダイムシフト。これらを達成できる地域が2040年、持続可能な豊かな地域となる条件である。人生100年時代、世代格差がなく平等に、生きるに値する社会になること、そのような社会を目指す決意、行動が求められます。」

セミナーの背景となっている当社の取組、実績

当社グループでは2005年より高齢者住宅事業を展開、山陰地方で36棟を開設、運営特に大山中海中央湖圏域（人口約55万）で重点的に出店

鳥取県	人口	548,479	米子市	人口	146,108	10 棟
			境港市	人口	33,011	5 棟
鳥根県	人口	662,149	松江市	人口	198,330	12 棟
			出雲市	人口	174,226	5 棟

当初、介護が必要な高齢者への介護保険施設ではない選択肢をつくりたいから始め、最近のコンセプトは「人生100年、いつまでも幸せ」「楽しく健康に年を重ねる」と豊かに暮らせる住宅へと変化

入居理由が「自宅で介護が難しい」から「独居」となってきた

視察受け入れ、経営コンサルティング、高齢者住宅F C展開

1. 人生100年時代の到来は喜ぶべきもの？

・・・人は不安に思っている

長寿社会の到来

高齢者で「長寿をめたい」と考えている人の割合は約4割

健康で、経済的に問題がない高齢者においても長寿をリスクと考える人が多い反面、高齢になるほど幸福感が高まっていく人がいることも確かなことである

「テクノロジーの進歩による人類最大の成果を前にして、私たちは、医療保険制度が破綻する心配ばかりしている。それよりも、この成果を土台に、年齢を重ねる人たちのための新しいストーリー、新しい習慣、新しい神話を生み出すべきではないのか。」

3. 人生100年時代の変化、新しい習慣とは

・・・人の生活はどのように変わるのか

どのような社会システム、ライフスタイルになれば幸福長寿社会となるのか

我々が支持する一つの基本的な考え方として

サードステージからマルチステージ・・・リスクリング、リカレント教育の必要性
マルチステージの意味するところは？仕事、社会生活に引退はない

社会システムとして

定年の概念をなくしなるべく長く働く、社会生活の引退はなく、いつまでも社会とかわりを持ち、活発に活動する
それは、労働人口減少、個人消費減少、健康寿命伸長に対して絶大な効果がある

「シニアステージ、シニアコート」のブランドプロミス (中核概念)

高齢期を「知的に成熟する人生の発展期」として積極的に受容する考え方。
スマートエイジング



「楽しく、健康に年を重ねる」
「人生100年、いつまでも幸せ」
「住み慣れたまちで暮らし続けたい」